

(別添3)

【珠洲市】
校務DX計画

(パターン1 簡易版)

1. 校務DXを推進する上での現状と課題

令和5年度の文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、石川県平均の数値を全体的に下回っている。学校内での情報共有に関しては、珠洲市内の学校の66.6%がデジタル化できている。しかし、教職員と保護者間の連絡のデジタル化が2項目とも0%となっている。また、教職員と生徒間の連絡のデジタル化でも、2項目の内1項目が0%となっている。FAX・押印等の廃止に関しても、石川県平均を下回る結果となっている。

課題としては、保護者とのやり取りがメールもしくは電話の学校が多いこと。生徒へのアンケートや配付物等に関して、紙媒体でのやり取りが多いことが挙げられる。校務支援システムを利用することで、ペーパーレス化等が少しずつ進んでいるが、一部業務においてはデジタル化が進んでいない。

2. 校務DXを推進するための課題解決策

令和6年度中に1校が保護者連絡ツールを取り入れ、保護者への文書の送付、情報伝達を行っている。保護者から学校への連絡機能（遅刻・欠席連絡等）はまだ使用していないため、令和7年度中に活用できるよう進める。また、現在1校のみの活用となっているが、他10校での活用も検討し改善を図っていきたい。

教員と児童間の連絡のデジタル化に関しましては、学年・学校により差はありますが、家への持ち帰り学習を進めていく中で、クラスルームを使用した情報伝達を今後進めていく。また、デジタルドリルを活用し、授業での問題や、宿題等を配信しペーパーレス化を進めていく。

FAX・押印等に廃止につきましては、やりとりを行う相手方の協力を得る必要がある。そのため、先進自治体の事例を参考にしながら改善策を検討していく。

3. 次世代校務DX環境の整備について

令和5年3月に文部科学省が取りまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」において方向性が示された「次世代校務DX」環境（ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方）を目指し、必要な環境整備について今後、学校のGIGA担当者とも連携しながら、検討を深める。